

**障害者支援施設 大方生華園**  
令和7年度 地域連携推進会議 議事録

法人名	社会福祉法人土佐七郷会
施設名	障害者支援施設 大方生華園
開催日時	令和8年3月10日（火）13:00～15:00
開催場所	大方生華園 第2 2階会議室
構成員	<p>【施設関係者】</p> <p>入所利用者代表・・・・・・・・・・・・・1名</p> <p>日中生活介護利用者代表・・・・・・・・・・・・・1名</p> <p>入所利用者の家族代表・・・・・・・・・・・・・1名</p> <p>【地域関係者】</p> <p>小学校校長・・・・・・・・・・・・・1名</p> <p>区長・・・・・・・・・・・・・1名</p> <p>福祉に知見のある方兼地域関係者・・・1名</p> <p>【施設職員】</p> <p>施設長、副施設長（サービス管理責任者）、支援課長</p>
議題	<p>(1) 地域連携推進会議について</p> <p>(2) 施設概要説明・事業計画書説明</p> <p>(3) ヒヤリハット、事故報告書</p> <p>(4) 利用者との意見交換</p> <p>(5) 施設見学</p> <p>(6) 意見交換</p>
開会挨拶（施設長） 自己紹介	<p>平素より、社会福祉法人土佐七郷会の活動に格別のご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。また、大方生華園の事業につきましても、日頃より多大なるご支援をいただき、重ねて御礼申し上げます。</p> <p>このたびは、地域連携推進会議の開催にあたり、構成員として急なご依頼にもかかわらずご快諾いただき、厚くお礼申し上げます。</p> <p>（挨拶終了後、構成員の紹介を行う）</p>
議題（1） 地域連携推進会議について（趣旨説明）	<p>国としては、障害者福祉サービスの経験が十分でない事業所が急増していることから、支援の質が低下するのではないかと懸念を抱いています。特に、共同生活援助や障害者入所施設は閉鎖的になりやすく、外部からの視点が入りにくいという課題があります。</p> <p>そのため、外部関係者が定期的に事業所の取り組みを確認し、意見を交わす機会を設けることで、運営の透明性を高め、結果として支援の質の向上につながるのではないかと考えられました。</p>

	<p>こうした背景から創設された制度が「地域連携推進会議」です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2025年11月、大阪府の就労継続支援A型事業所であった不適切受給（過大受給）等を例に挙げる。</li> </ul>
<p>議題（2） 施設概要説明 事業計画書説明</p>	<p>■法人、施設の紹介</p> <p>「WAMNET」で公表されている情報をもとに、土佐七郷会の歴史についても説明する。</p> <p>■令和8年度事業計画書(案)を説明</p> <p>事業の目的や運営の基本方針等を、計画書に沿って説明。 また、年間会議計画の中で「虐待防止委員会」について詳細説明を行う。</p>
<p>議題（3） ヒヤリハット 事故報告書 について報告</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・期間：令和7年4月1日～令和8年2月末 ヒヤリハット 12件、事故報告書 8件</li> </ul> <p>【ヒヤリハットについて】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事故を未然に防ぐためには、「小さな気づきを早期に共有することが重要である」との認識のもと、ヒヤリハットの積極的な提出を呼びかけています。提出しやすい環境づくりにも配慮し、心理的負担を軽減する体制整備に努めています。また、支援員の専門性向上を目的として、服薬支援の基礎知識や緊急時対応などをテーマとした定期的な研修を実施しています。</li> </ul> <p>【事故の傾向】（件数が多い落葉等について）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者はそれぞれ障害程度や特性、身体機能、既往歴、服薬内容などが異なっており、服薬支援は高齢化と共に年々複雑化しています。現在はマニュアル遵守を徹底し、ダブルチェック体制を整えています。その複雑化の対応に遅れたものが、結果として事故へと繋がる傾向が多く見られております。</li> </ul> <p>【対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月開催している職員会および必要に応じて開催する臨時支援会議では、発生した事故やヒヤリハット事例について、経緯・要因・背景を丁寧に振り返っています。個人の責任追及ではなく、仕組みや環境面に課題がなかったかという視点で検証を行い、再発防止策を具体化しています。また、検討内容は全職員に周知することで、支援方法の徹底と標準化を図っています。</li> </ul>
<p>議題（4） 利用者との意見交換</p>	<p>入所利用者代表（男性）および日中生活介護利用者代表（女性）に対し、構成員より「困っていることはありませんか」等の質問がなされたが、いずれも「特にない」との回答であった。</p> <p>一方で、参加した利用者2名にはやや緊張した様子が見受けら</p>

	<p>れ、普段のような受け答えや円滑な会話が十分に行われていない状況であった。</p> <p>今後は、会を重ねる中で、より活発な意見交換が図られるよう、進行方法や雰囲気づくり等について工夫していく必要がある。</p>
<p>議題（５） 施設見学</p>	<p>大方生華園第２施設内の見学を実施。</p> <p>見学では、居室、食堂、支援室、医務室等、施設内の各所について案内し、全体の状況を確認していただいた。</p> <p>また、支援員室に設置している行動記録モニターの概要について説明を行うとともに、居室内で実施している支援内容についても説明を行う。（対応：副施設長、課長）</p>
<p>議題（６） 意見交換</p>	<p>【意見・質問・感想】</p> <p>委員：施設内に立ち入るのが初めてで、普段どのような活動が行われているのか知らなかったため、驚いたことが多かった。</p> <p>委員：医務室にベッドがないので、あった方が良いのでは？</p> <p>職員：ご指摘ありがとうございます。検討いたします。</p> <p>委員：（居室で壊れている収納ケースを見て）これはどうしたのか？</p> <p>職員：障害特性（破壊行為）について説明</p> <p>委員：産業医はいないのですか。また、いないのであれば、職員が健康かつ安全に働けるようにするための取り組み等があれば教えてください。</p> <p>職員：①当施設では、職員数が 50 名以下であるため産業医の選任は行っておりませんが、協力医として精神科および内科の医療機関と契約しており、必要に応じて速やかに受診につなげられる体制を整えています。</p> <p>②施設としての取り組みとして、全職員に対し定期的な面談を必ず実施しています。面談の場では話しにくい内容にも配慮し、匿名で自由に意見を投書できる意見箱を設置しています。</p> <p>③職員のメンタルヘルス管理および職場環境の改善を目的として、専門機関に委託し、年 1 回のストレスチェックを実施しています。</p> <p>委員：利用者の安心安全のため行動記録モニターがあることは良いことだと思う。知らない保護者もいると思うので、後援会役員会等で知らせたほうが良いと思う。</p> <p>職員：承知しました。早速、次回の後援会役員会等で触れていきたいと思えます。</p>